

港まちづくり協議会ニュース

第32号 (2009年3月6日発行)

“まちの縁側事業”

第6回『まちの遊び場へ行こう!』を開催しました。

2009年2月1日(日)会場:名古屋港湾会館 3階第10会議室&ロビー

参加人数
約120名

3世代のふれあいが生み出す、楽しい子育て広場



今回は、子育てをテーマにした“まちの縁側”で、親子で遊べて楽しめる居場所づくりを試みました。プログラムは、人気の遊具や手作りおもちゃコーナー、大人向けのクラフト教室など盛りだくさん。

当日は120名を超える親子や家族連れの皆さまにご参加いただき、会場は楽しそうに遊ぶ子どもたちの笑顔でいっぱいでした。

この縁側は、企画は部会ワークショップ、運営は地域の子育てNPO法人の「みなと子育ているかねっと」さん、そしてボランティアグループの「港おもちゃ図書館ほのほの」さんにご協力いただきました。

会場では3世代にわたる交流がおり、その中で子どもたちが元気に遊ぶ空間は、地域の力によってできあがった理想的とも言える“まちの縁側”空間でした。



手作りおもちゃコーナー

温もりあふれ、工夫のこらされたおもちゃは大人気でした。



アクティブに遊べる大型遊具

汗を流して思いっきり遊んでいました。大人も興味津々でした。



絵本の読み聞かせコーナー

みんな目をきらきらさせて聞き入っていました。



人気のプリザーブドフラワー教室

託児付きで、ママさんたちも安心してしっかり楽しめた様子でした。



『はらぺこあおむし』の手づくり劇

子どもたちも参加して楽しめるスタイルが工夫されていました。



「ポータン」との握手 & 撮影会

登場とともに子どもたちが集まり、やっぱりポータンは大人気でした。

先進事例視察『まちの縁側へ行ってみよう!』を開催しました。

助け合い・学びあいの実践現場を見学

参加人数
各回15名

今回は、実際に「まちの縁側」を訪問してその空間を体感し、運営する方々から「自分たちでみんなの居場所をつくる」ことの喜びや苦勞、そしてそれぞれの想いなど生の声を聞くことを目的に視察を行いました。どちらの視察先にも共通するのは、自分たちに必要なものを自発的にカタチにし、それを自主運営する場であり、そしてそこにスタッフそれぞれがやりがいを見出して生き生きと活動している姿でした。そんな姿に、参加者の皆さんは新たな刺激やヒントを持ち帰ったようでした。

◆第4回 2009年1月18日(日)視察先:まちの縁側MOMO(名古屋市東区)



「まちの縁側MOMO」は、普段は近所の子もたちや主婦、高齢者の方などさまざまな人が気軽に訪れ、おしゃべりしたり、本を読んだり、自由に過ごせる憩いの場になっています。そして、ときには各種のイベントが開催されて、手づくり小物やお料理の教室、ミニコンサートなども行われているそうです。

そして、地域の方との触れあいの機会を通じて生まれる人と人との出会いと交流、発見と気づきの中で、生活の文化を創造していくことをテーマに活動していました。



◆第5回 2009年1月24日(土)視察先: Mama's Cafe(多治見市大平町)

Mama's Cafe(ママズカフェ)は、「子育てママのリフレッシュプレイス」をコンセプトにした、子連れでも安心して来店できて、しかも「子どもと一緒に働ける場」として運営されているコミュニティカフェです。多治見市総合福祉センターの一角にあり、地域の様々な方々が訪れています。

手づくりの味はもちろん、店内に設けられた手づくりママさんたちによる雑貨コーナーを目当てに来るお客さんも多いそうです。カフェの他にも地域のイベント行事などに参加して、積極的な交流を地域の中に巻き起こしているとのことでした。



“チャレンジショップ事業” “調査検討事業”

『まちづくり講演会』を開催しました。

2009年2月8日(日) 会場:名古屋港湾会館 5階第2会議室



「地域通貨を軸とした高齢者向け街のコンシェルジュ事業について ～地域の住民が喜び、商店街が潤い、NPOが満足する～」

講師：沢田 藤司之 氏（NPO法人バリアフリー協会理事長）

参加人数
約50名

東京都品川区にある中延商店街での取り組みである、空き店舗を活用した高齢者向け「街のコンシェルジュ」事業について、事業を推進するNPO法人バリアフリー協会の沢田理事長をお招きし講演会を行いました。

「街のコンシェルジュ」事業とは、高齢世帯の困りごとを有償ボランティアが支援するNPO事業。ちょっとした困りごとを、商店街という顔の見える範囲でそれを得意とする人がお手伝いする。そこには、安心感と地域に根差した交流が生まれているようでした。

この事業の対価の支払いにはクーポン券を活用しています。提供されるサービスとその対価としてのクーポン券が地域のなかで循環する仕組みはひとつのビジネスモデルとしてしっかりと展開されています。クーポン券は地域通貨のようなものだけれど、あくまでも事業をまわすツールとして活用されていて、ツールを使う仕組みがしっかりと構築されているところが成功の秘訣のようでした。

そして、世界でも稀にみる日本の超高齢化社会を沢田さんは「未体験ゾーン」に突入すると分析され、高齢者に配慮した商店街の実現を目指していました。また、これからのまちづくりに必要なこととして、地域の消費者が喜ぶことを世界目線で捉えることの重要性を指摘されています。

沢田さんの熱のこもった講演には、会場からもさまざまな質問や共感の声が寄せられ、大変有意義な講演会となりました。

最後に話された沢田さんの言葉が印象的でした。「今は、毎日誰かに感謝されている。今までの人生のなかでこんなに毎日感謝されるようなことはなかった。人の役に立っているということが一番やりがいを感じることです。」

熱意あふれる講演からは参加者の皆さんそれぞれに深い学びを持ち帰ったことと思います。

お忙しいなか東京からお越しいただいた沢田さん、そして参加者の皆さま、どうもありがとうございました。



□ 港まちづくり協議会では、ポートピア名古屋設置に伴い競艇を施行する自治体(蒲郡市など)から名古屋市に交付される「環境整備協力費」を用いたまちづくり事業を、住民と行政との協働により検討・実施しています。協議会の委員は、西築地学区連絡協議会・築地口商店街振興組合・ポートオブナゴヤ商店街振興組合からの推薦を頂いた方々と名古屋市の職員で構成されています。

□ 港まちづくり協議会の会議は誰でも傍聴できます。傍聴のルール、会議の開催日や会場など詳しくは下記の協議会事務局までお問い合わせください。

<参加申し込み・お問い合わせ先> 受付時間：平日9:00～18:00

港まちづくり協議会事務局 〒455-0037港区名港1-14-23 コーラルまるさんビル2F D号室

電話:052-654-8911 FAX:052-654-8912 Eメール:minato-machi@view.ocn.ne.jp

★上記の事務局に会議資料を設置し、どなたでも閲覧できるようにしています。

★港まちづくり協議会の情報はインターネットでも見ることができます。◆URL <http://www.minato55.jp/>